

第一全体会リレートーク

千葉の地で学びの力をたしかめよう

千葉には、さまざまな学びと社会教育の姿があります。学びの力のたくましさを、千葉の地から4本のリレートークで発信します。



「見る・歩く・学ぶ・集う！館山まるごと博物館」

池田恵美子（NPO法人安房文化遺産フォーラム事務局長）

南北逆さに地図を見たとき、弧を描いた日本列島の頂点が千葉県館山市であり、古くから海路の要衝であったとわかる。その地の利から足もとの地域には、全国的にも貴重な戦争遺跡や里見氏城跡、海洋民の交流の痕跡、青木繁《海の幸》誕生の家など、多様な文化遺産や歴史的環境がのこっている。私たちは、地域全体を「館山まるごと博物館」ととらえて、文化遺産を保存・活用し、市民が主役のまちづくりを進めている。



「やっとたどり着いた学びの場・夜間学級」

藤井好幸（市川市立大洲中学校夜間学級再任用教諭）

千葉県唯一の夜間学級である大洲中学校夜間学級に8年間勤務後、2010年、定年退職。現在も再任用制度で同校夜間学級に勤務。本校夜間学級には現在、年齢80歳から15歳、国籍は日本、フィリピン、中国、ネパール、インド、アフガニスタン、ブラジルの8カ国、計37人が学んでいる。「先生、この学校に来るまで70年かかりましたよ」そんな生徒さんの声をお届けしたい。



「公的社会教育機関の職員として～公民館主事の仕事から～」

中村亮彦（君津市周南公民館）

2006年君津市教育委員会に社会教育専門職員（社会教育主事）として採用。生涯学習課、清和公民館を経て、2012年より周南公民館に勤務。住民と、地域と、そして公民館とどのように向き合うべきか模索の日々であるが、住民、先輩、仲間、たくさんの人と出会い、様々な活動に取り組むことができた。これまでの私を支えてくれた「人」と「学び」とのめぐりあいについてお伝えしたい。



「場所の力」

浅野平八（日本大学生産工学部教授）

1971年日本大学修士（建築工学）。1972年河野通祐「公民館-建築設計のための手引き」（井上書院）を手伝う。1975年「青年の家・少年自然の家」（井上書院）を河野と分担執筆。1983年「地域センターづくり再考」（建築知識）を責任編集。1989年博士論文「地域集会施設の機能構造」。1995年「地域集会施設の計画と設計」（理工学社）。2010年「公民館のデザイン」（公民館学会）編集委員長。